

令和6年度 子ども若者★いけんぷらす  
「病気の治療のためにブタから心臓や腎臓をもらう異種移植、みんなはどう思う？」  
アンケート調査結果（いけんのまとめ）

○調査概要

(1)調査テーマ

- 病気の治療のためにブタから心臓や腎臓をもらう異種移植、みんなはどう思う？

(2)調査対象

- 中学生以上のぷらすメンバー

(3)回収状況

- 回答数:113 件

(4)調査方法

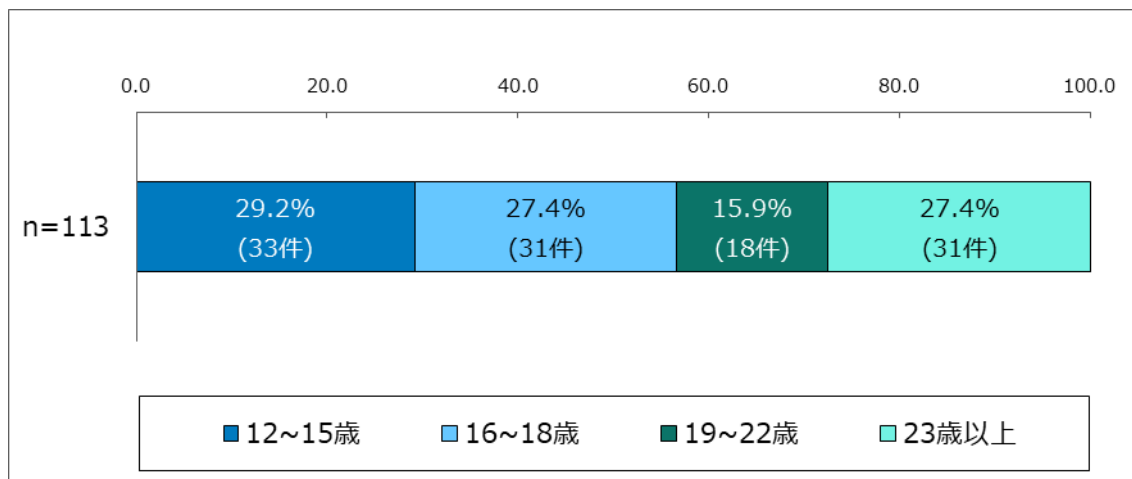
- WEB アンケート調査

(5)調査期間

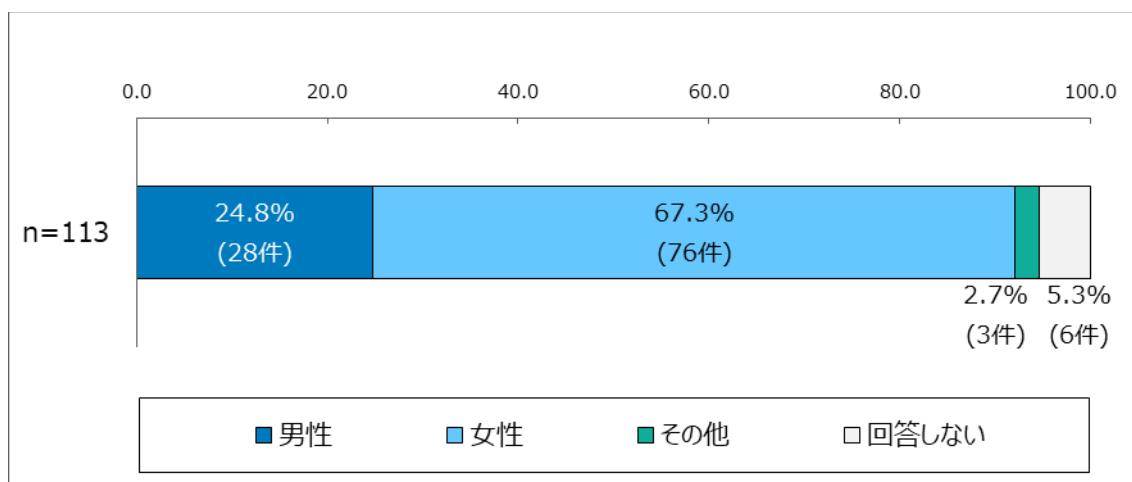
- 令和6年 10月25日(金)～11月10日(日)

## ○調査結果

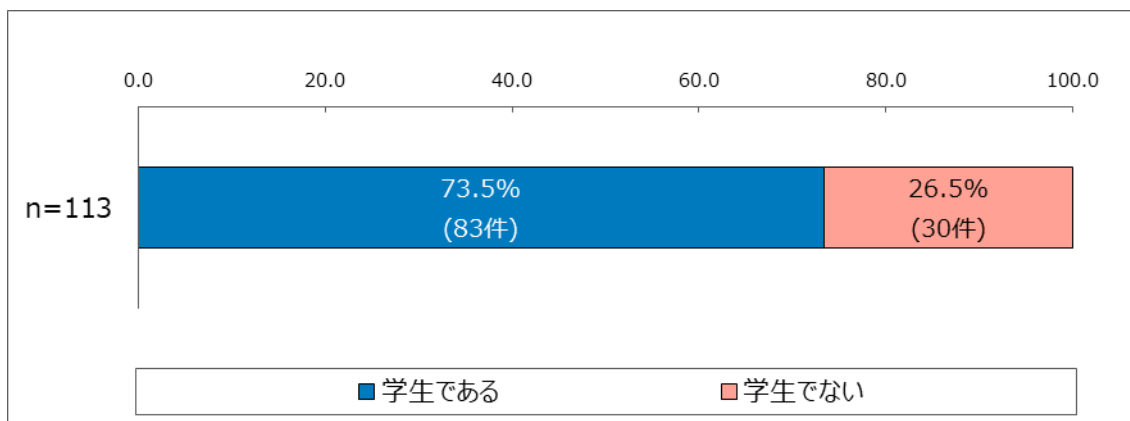
Q1. あなたの年齢を教えてください。(単数回答)



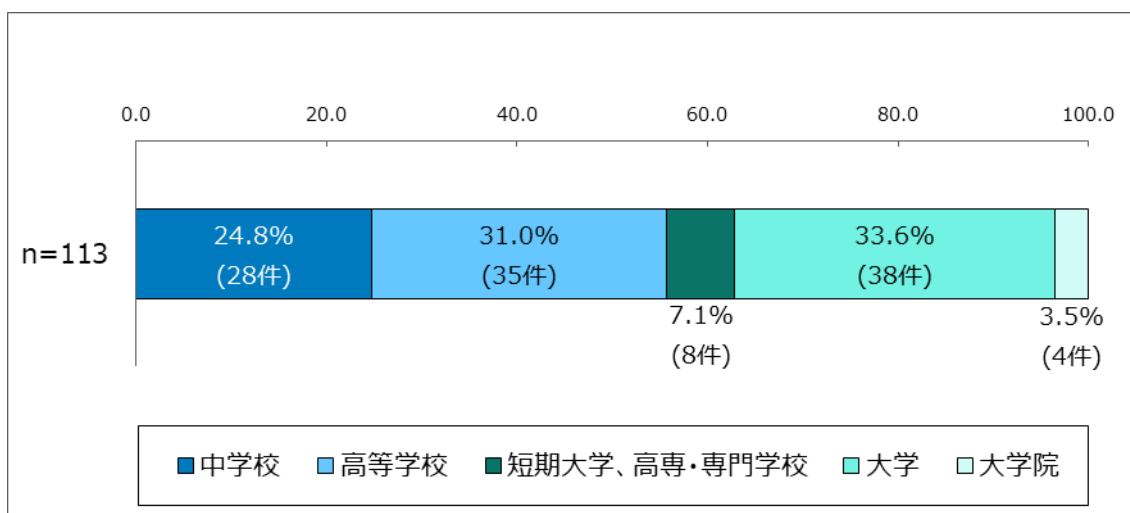
Q2. あなたの性別を教えてください。(単数回答)



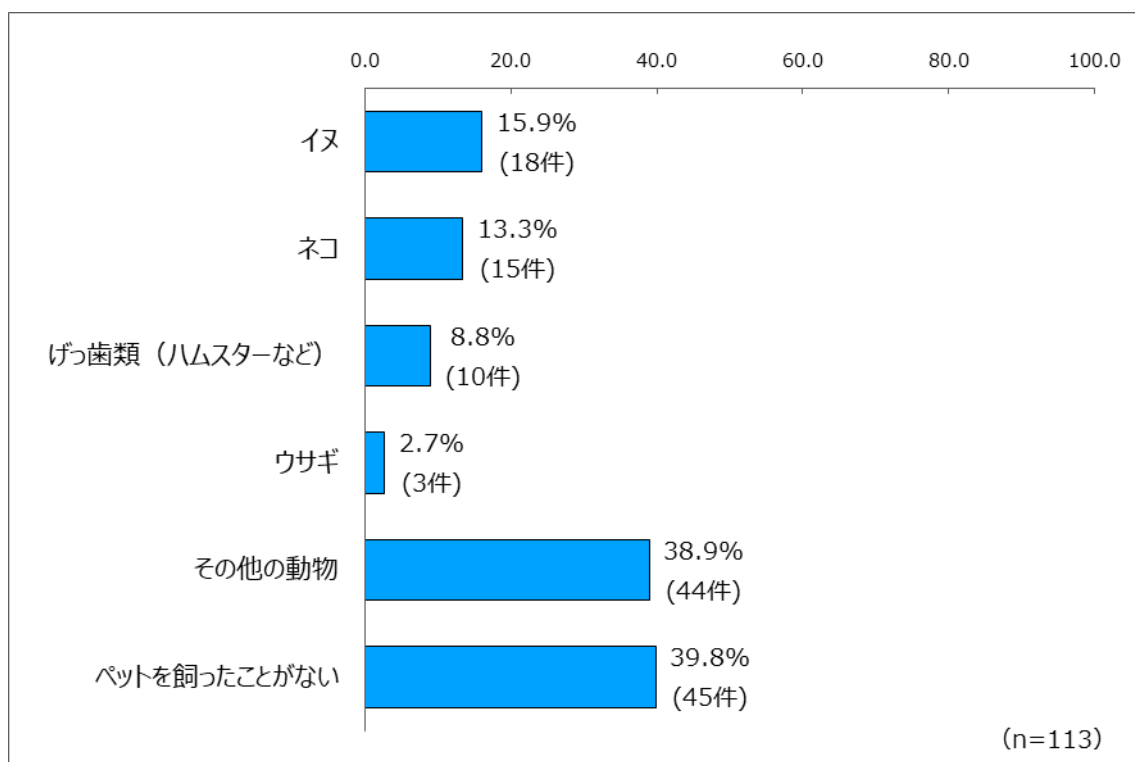
Q3-1. あなたは今、学生ですか。(単数回答)



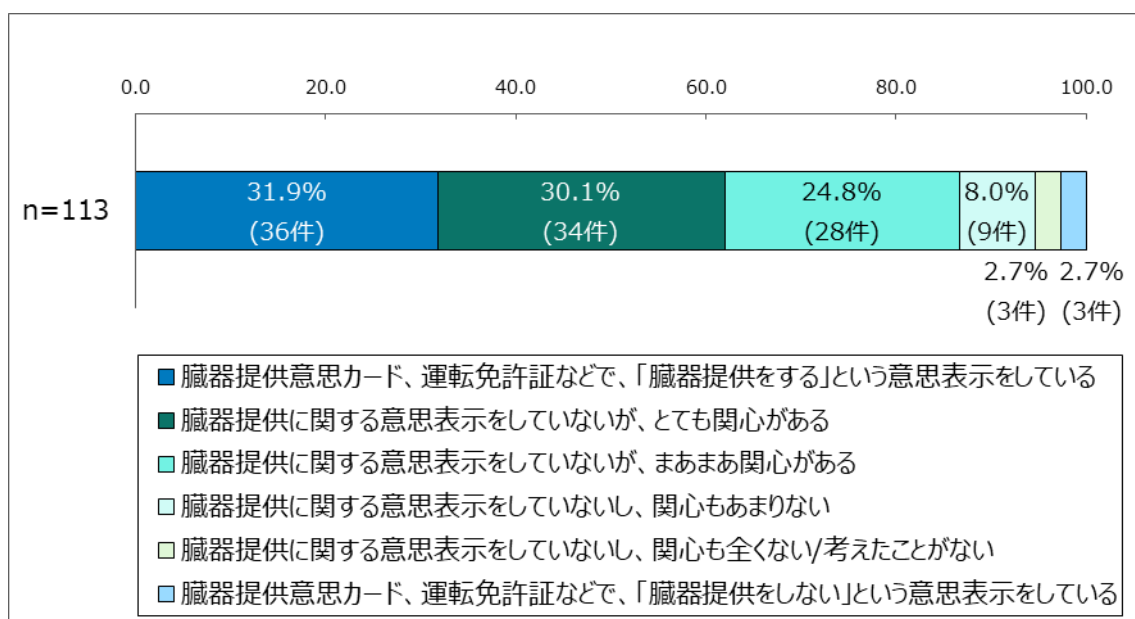
Q3-2. 学生の方は現在の就学歴、学生以外の方は最終学歴を教えてください。(単数回答)



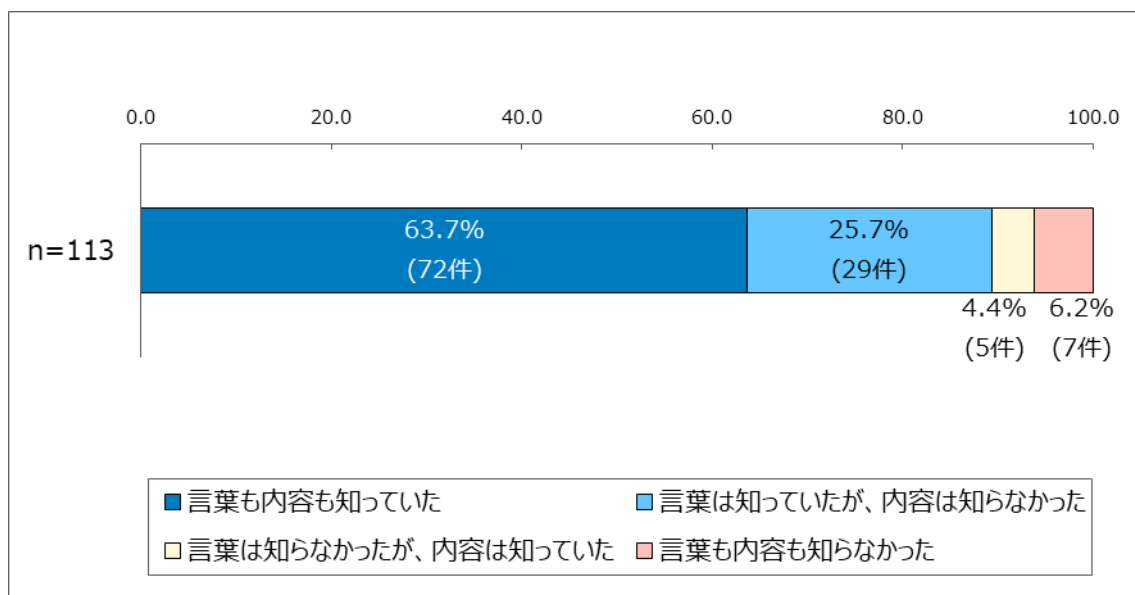
Q4. いま飼っているペット、または過去に飼ったことがあるペットを教えてください。  
(複数回答)



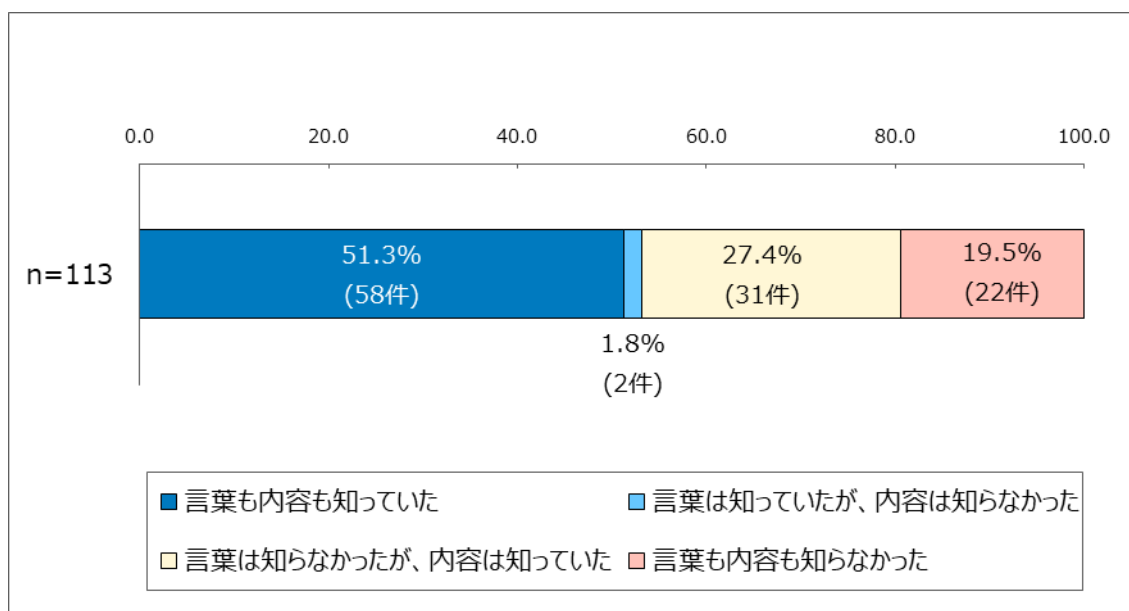
Q5. 臓器の機能が低下した患者さんに、亡くなった人、あるいは生きている人から提供してもらった健康な臓器を移植することを「臓器移植」と言います。「臓器移植」への関心について教えてください。(単数回答)



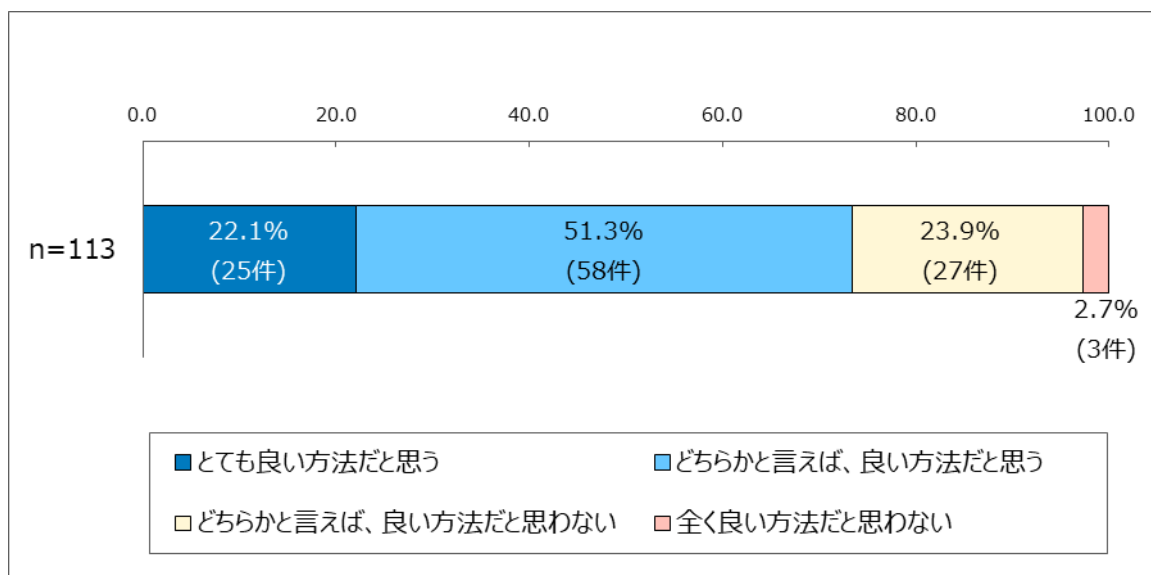
Q6. ケガや病気で損なわれた体の機能を補うために、例えば自分や他人の iPS 細胞等の幹細胞から人工的に作った組織や臓器を使って治療を行うことを「再生医療」と呼びます。「再生医療」について知っていましたか。(単数回答)



Q7. 臓器の機能が低下した患者さんに、動物の臓器を移植することを「異種移植」と言います。「異種移植」について知っていましたか。(単数回答)



Q8-1. 臓器移植を必要とする患者さんの数に対し、人から提供される臓器の数が足りていない状況が続いているため、臓器不足の解消策の一つとして「異種移植」が検討されています。「異種移植」について、どのように思いますか。(単数回答)



Q8-2. 前の質問について、そう思った理由を教えてください。(自由記述)

- <「とても良い方法だと思う」「どちらかと言えば、良い方法だと思う」と回答した理由>
- たとえ動物の臓器であろうと、移植したことで今より多くの患者さんが元気に生きる未来があるのであればとてもいい方法だと思います。
  - 移植することで、痛いこと苦しいこと辛いことから解放される人がいるから。
  - 患者さんは動物の臓器であったとしても少しでも希望を持つことで楽になれるかもしれないから
  - 困っている人を科学の力で助けることができるから
  - 死ぬ人が減るから
  - 少しでも生きるために必要だと思うから
  - 少しでも長く生きていける希望を持てる人が増えると思うから。
  - より多くのいのちが救える可能性が増えるから。
  - より多くの人命が救える可能性があるから
  - 他の動物であろうと人の命が救えるから。
  - 助かる人がふえるかもしれないから
  - 異種移植をすることで救われる人が増えると思うから
  - 移植を待つひとが多くいるから

- それが出来るとなれば、移植待ちの人の移植を受けられるから。日本では圧倒的に脳死移植が少なく、待機期間に亡くなるひとも多いから。
- 多種移植であれ、どこかで命が犠牲になることに変わりはないが、自分の身近な人、例えば家族や友達が助かるなら賛成であるため
- なにもしないで亡くなるより、何か方法があるのだったらその方法で生きられる方がいいから。また、弟が心臓病を持っていて、もし必要だとなったら亡くなることだけは想像したくないから。
- 異種移植がよくわからないから怖いという感想もあるが、命が救われるならいいと思う。
- 異種移植であっても、何も手立てがなくて助からないかもしれないという状況だったら一つの治療法として希望になると思うから。
- 異種移植によって命が救われる人がいると思うから。また、自分への臓器移植に関して自分で決定するだけなので、特に公共の問題が起こることもないと思うから。
- あまり詳しいことは知らないが、臓器移植のための臓器が足りておらず異種移植ができる状況ならば良い方法だとは思う。
- 自分自身、心臓に疾患があり、産まれてすぐ牛の皮の移植をする手術をしていると聞いた。今、元気なのはその時の手術のおかげ。当事者なので、感謝しかない。
- もしも自分や自分の家族が臓器移植が必要になった場合、それが可能である選択肢は多い方が良くと思うから。
- ブタなどの臓器を用いて人が延命できるのであれば、一つの選択肢として必要だと思うから。
- 移植を望む人によって選択肢が増えるから。
- 臓器に変わりはないから
- 救命が目的ならば、誰の臓器だろうと構ってられない方が多いと思うので、選択肢が増えていいと思います。
- 一番いいのは人間同士だが、そうも言っていないから。
- 何もせずに亡くなるよりはマシだと思うから。
- 解決する可能性があるから
- 人の臓器でどうしてもまかなえないのならば、いい方法だとも思う
- ドナーの方たちが少ない今、他の動物でも助かる人命があるのであればとても良い方法だと思うし、費用もある程度安く済むならよいと思う。他の動物の命を奪うことにならざるという意見はあるけれど日々生活の中で動物の命をいただいている以上、それだけおかしいというのは違うと思うから。
- ドナーが見つからなかったり移植が間に合わなくて亡くなるより良いと思うから。
- 提供者不足を補うものとなるから。ただ、リスクもあることには注意したい
- 臓器ドナーが不足していると感じたことがあるから

- 臓器のドナー不足と言われているが、その問題を解決するための1つの方法だと感じるから
- 動物を殺すことにはなってしまうが拒絶反応をクリアできればドナー不足の問題も解決に近づくと感じるから。
- 人間の臓器の絶対数が少ないから、ブタの臓器で少しでも助かる人が増えると思ったから
- 臓器の不足を補うことができ、尚且つ手術などにかかる費用が抑えられるから
- 臓器を提供してくれる人がいないなら、異種移植は、やむを得ない方法だと思う。だが、臓器提供は、なるべく人から提供してもらうのが望ましいと思うので、世間でもっと臓器移植についての認識を広めていくことが必要だと思う。
- 臓器移植をしなければ命の危機のある状況にいる方々が大勢いる中で、異種移植によって救われる命があるならばあった方が良かったため。
- 臓器移植を希望する人に対して、ドナーの数が少ないため選択肢の1つだと思うから。
- 臓器移植待機者を減らすことが可能だから。
- 臓器移植等のための制度が整っていないため、異種移植の必要性が高いと思うから
- 臓器不足が理由で亡くなってしまおう人を救う新たな選択肢だから
- 臓器不足の対応策としては、現状できうるなかで一番現実的な方法だとは思っている。しかし移植のためだけに命を奪う(心臓の場合)のは、あまり気が進まない。
- 需要よりも供給の方が少ないから、需要と供給を釣り合わせるための手段としてはいいと思う。
- 例えば、現在心臓移植を受けるのは日本国内では難しく、アメリカでの手術が多いと聞いたことがあります。そのため、異種移植によって多くの人の命が助かるのであれば行うべきだと考えています
- 現在日本では拡張型心筋症などの疾患により移植が必要になった場合、移植ネットワークに登録後最短約 1000 日、最長約 1500 日以上待つ必要があります。また肝臓等は生体肝移植などがありますが心臓にはそのような方法はなく、人工心臓をつける必要があります。しかし人工心臓をつけると血栓が出来やすくなったりするため、ヘパリンなどの抗凝固薬の投与が必要になることが多くそれにより少しの出血で命を落とす可能性が出てきます。そのため異種移植により移植待機期間を短くできるなら賛成です。
- 海外の臓器移植と比べると、日本はまだまだ臓器移植が進んでいないと感じる。臓器移植は、日本では否定的に捉えられがちだと思う。例えば、目が無くなったら天国で見えなくなってしまうかも、といった考え方をする人も少なくないからかな？と個人的に考えていて、異種移植であれば、そういった捉え方をする人も減るのかなと思ったから。



- 日本では移植できるまでに時間がかかるらしいし、それ以外にも倫理的な問題があったり移植するのが難しいと聞くので、安全面がこれからもっと証明され、患者の希望があるのであれば異種移植できるようになったらいいと思う。
- 人の臓器移植では人が亡くなるのを待つしかなく、レシピエントに対して臓器提供者が非常に少ない。異種移植ができれば患者の選択肢が増えるから。
- できれば画期的であるが、リスクが大きいと感じるから。
- 助かる命を増やす手段が多いことは良い事だと感じます。一方で、自身が動物の臓器を移植された場合に身体に悪影響があるのではという懸念があるため心から同意することが出来ません。
- 安全が保障されているならそれでいいのでは？その動物の肉を食べることと変わらないように思う。
- 安全に使用できるのであれば、手に入りやすいと思ったから。
- 安全性に十分な配慮ができれば、助かる人が増えると思うから。
- 健康にも問題ないことが確認されて実用化されれば、命が救われる人が増えるから。
- 安全性の面で心配はあるが命を救えるという点では良いと思う。
- 異種移植によって命を救うことが出来るから。ただ、異種移植によって人の身体にどのような影響が出るか、まだ分からないことも多いため、とても良い方法とは答えられない。
- 健康に生存できる可能性が上がるから。科学的に安全性が確かめられているのならヒトである必要はないと思う
- 不慮の事故や、難病でどうしても臓器をもらわないと生活できない方が世の中にはいる。ブタの臓器から異移植手術を受けた方は、その数日後にお亡くなりになりました。その技術に関してはまだ課題が残るばかりですが、ヒトに近い生物(類人猿)の臓器であった場合生存が可能になればもっといいのかなと思います。
- 動物の臓器を移植するのは、リスクがあり前例でも死亡例が確認されています。ただ、どちらにせよ臓器提供が無いと死んでしまうのなら、受ける価値はあると思います。
- 患者が同意をしていて、健康上問題がなければいいと思う
- 健康に問題がないかつ本人が望むなら長生きできるようになるから
- 生前に臓器提供する意思のある人が意思表示をし自身の家族への理解を得ている割合はそう多くないだろう。適合する臓器を待ち続ける苦しさがあるならば選択肢候補としてあっても良いと思う。異種の臓器を単体か一部分の移植で利用するかで大きく印象が変わる。ただし、倫理面やリスクを考慮すると患者本人の気持ちを尊重することは大切にしてほしい。
- 種族は違うとしても、行き続けるための手段としては非常に有効だと思う。しかし、差別などその後の社会的活動に影響は及ぶかもしれない。

- そのおかげで患者さんが助かるのであれば、良い方法だと思います。ただし、「臓器提供のための動物」というように飼育することは良くないと思います。しっかり愛情を注いで育てて、亡くなった後に飼い主さんからの許可を得て使わせていただく。という方法がいいと思います。
- 1人でも多くの命が救えるから。しかし、提供される臓器は提供する側の動物が寿命で亡くなってから摘出したものであって欲しい。
- 動物を殺すなどしない限りは良いのではないかと思う。
- 助かる人が増えるから。ただし、どのような状態の動物から移植するかは考える必要がある。
- 死ぬことを待つしかない方の最後の砦になりうるから。しかし、倫理的な問題もないとは言えないと思うので、「とても良い方法」とは言えない。
- 患者さんが助かるのが優先だから良いと方法だと思うけれど、動物の臓器というのは少し抵抗があるから。
- 動物だからいいという訳ではないから、人間から人間への移植と同じようにするのであればいいと思う。
- 動物愛護の観点から言うと、全面的に賛成することは難しい。一方で、私は移植の適応になりかけたことがある。自分がその立場になったとき、生体移植が難しいのであれば、異種からの移植に可能性、希望を抱きたい。
- 動物愛護や倫理の観点から積極的に取り入れていきたい方法だとは思わないが、それによって助かる人が増えるならいいと思う。
- 倫理的な問題もあるとは思いますが、倫理観よりも命を優先したいと思う人にとっては良い選択肢になると思うから。
- それが最適解の一つであれば必要な方法だと思う。生命倫理の問題は考えられるが、人類が臓器を食べて自身の血肉に変えるのと大差は見られないと思う。
- 人間で補えないものを動物で補うという行為は、聞こえが悪いかもしれないが、実際人間は動物(肉や魚)を食べて生きているので、臓器不足が動物で補えるのであれば、食すことと同じように異種移植を進めてもいいのではないかと思う。
- むしろ、何故ダメなのかを聞きたい。何故ならいつも食べているものの中にもそういった動物は含まれているのに食べるのはいいけど移植がダメというのはむしろそっちのほうが倫理的にダメなものだと私は思います。それに、悪口で肥満体の人を豚と言ったりする人もいるが、その肥満体の原因に病気の可能性があるとは思わないのかとその悪口に疑問が残る。確かに、未知のことだがそれで死んだりしたらそれはだれが責任をとればいいのかと思う。
- 本人の同意が取れている or 助からない等の理由でご家族が提供した人体の臓器移植と違い動物愛護的な問題はあるがそもそも人間は家畜を食べているし植物やキノコの命は尊くないのかと言われたらそうでもないので提供するまでの飼育環境及び屠殺に

において必要以上の苦痛を与えず提供臓器以外の部位も無駄なく活用するなら良いと思う

- 私たちは普段動物を食べるために殺しているが、その動物を無駄なく使える考えだと思うから。
- 正式な臓器移植ができるまでのつなぎになるため。また、いい感じの免疫抑制剤があれば抵抗も減らせるため。
- 日本でなぜ臓器提供不足の問題が生じているのか？という原因を明らかにした上でそれを解消することを最優先とすべきだと思う。でも、それはきっと複雑で簡単には「これが原因だ。だからこんな解決策を。」とは言えないから異種移植も同時に検討されていると思っている。そう考えると、””人からの臓器提供を増やすこと””を最優先に取り組み続ける前提なら、いわゆる止血対応的な立ち位置で今は認めるのが国民の健康と幸福にとって良いのではないかとと思う。また、倫理的問題について言えば「植物の遺伝子組み換えは ok で動物の遺伝子改変はダメだと思っていない」「人間とその他の動物は違う」と思っているため、これらの考えの説明の筋が政府として通せる場合はやっても良いのではないかとと思う。

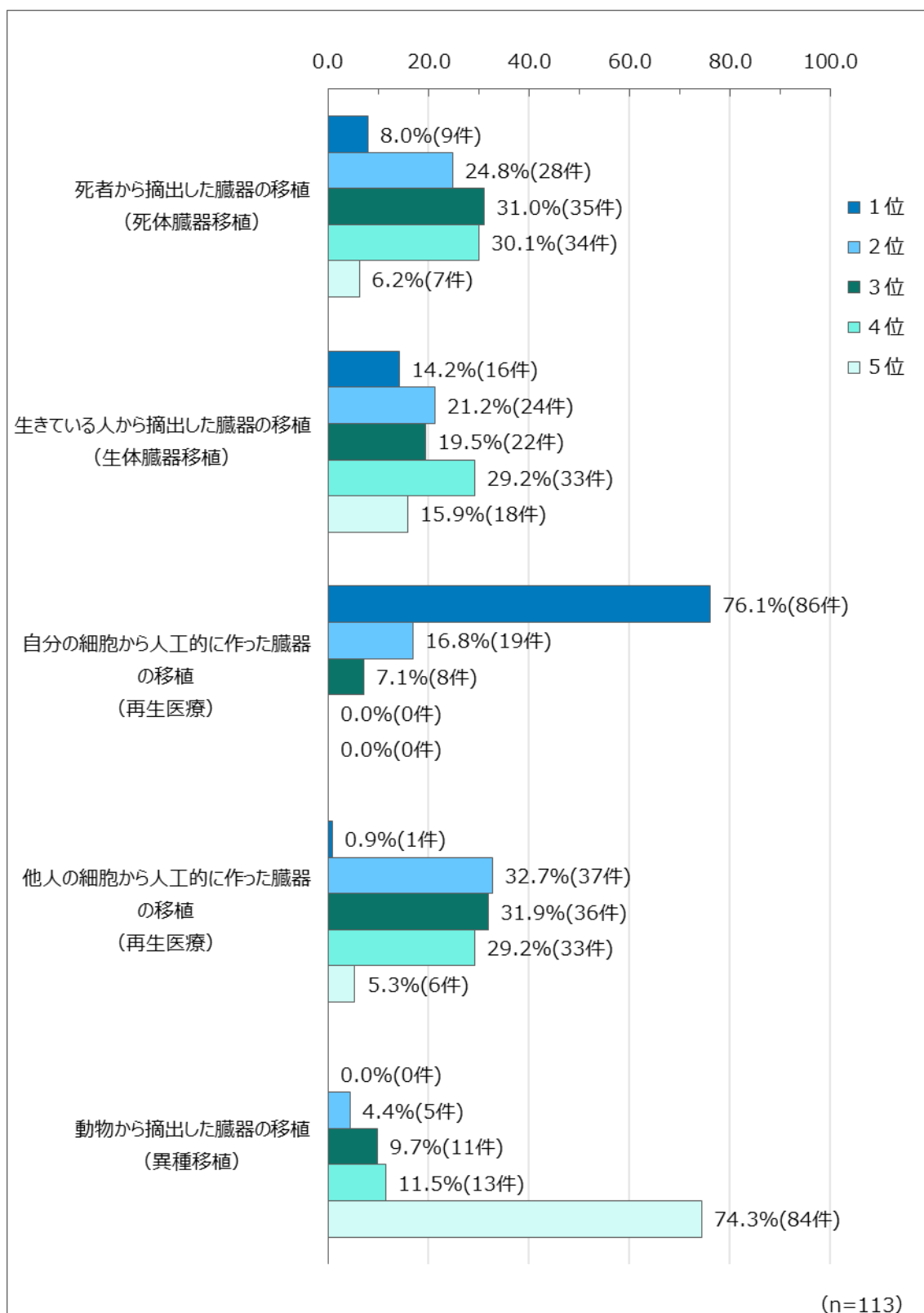
<「どちらかと言えば、良い方法だと思わない」「全く良い方法だと思わない」と回答した理由>

- 倫理的に間違っていると思うから。
- 人の「生」のために他の動物を科学の力を使い何かをするのは気が引けるから。
- 人間からの臓器移植の場合、必ず本人や家族の同意に基づいて移植が行われると思うが、動物からは同意が取れない。「命をいただく」という点では食肉も同じなので結論づけるのは難しいが、臓器という生命維持に必要な器官を人間の都合で移植するのは動物の尊厳を著しく侵害してしまうことになるのではないかと心配です。ただ、先に述べた通り、食肉などで命をいただくのはいいのか、という反論もセットで考える議題だと思うので、本当に結論づけるのが難しいです。
- 生きている人間を殺してまで臓器提供していない(脳死以外)にも関わらず生きている動物は殺して臓器移植をすることに対して命の重みは同じはずなのに命の重さの違いを感じてしまうから。しかし、私達は日々の食事で動物の命をいただいているので同じことだとも思う。本当にブタの心臓が人間の心臓として一生働くことができるのか心配だから
- 臓器を提供する側の動物には、「提供しよう」という意志があるわけではなく、倫理的に疑問をいただいたため
- 気持ち悪い
- 個人的に不快に感じてしまいます。
- 自分の中にヒト以外の臓器が入っているのは嫌な感じがするから。

- 自分がもし移植しなければならない時に、動物から摘出した臓器を自分の体に移植するのは嫌だから。
- まだ知識がなく、動物の臓器を移植することについて、抵抗があるから。例えば安全性であるとか、自分の体との相性などを考えると、まだ判断しかねない。
- 自分だったら最期まで人間の臓器で生きて自分の尊厳を守りたいから。動物の臓器を使ってまで生きたいとは思わないから。
- 良いか悪いかは分からないし、異種移植しないと死んでしまうという状況になったことがないから言えることかもしれないが、自分の体内に動物の臓器が入ると思うとゾッとするのが正直な感想です。
- 安全性がまだわからない
- なんとなく不安が残ってしまう
- 病気などの不安が完全になくなってはいないと感じる。
- 異種移植によって助けられる人もいることは考えられるが、人間との適合性が低い可能性があるのではないかと考えているため
- 生き物の種類が異なり、リスクが心配。そもそも別の動物の臓器が本当に適応するとは思えない。また、食肉として使われている心臓を自分の身体に入れることへの違和感がある。
- 拒絶反応に対しての対策が明確だと思えないから。
- 自分が臓器移植を待っている立場ではないため、正直異種からの臓器移植にはあまり良いイメージを持ってない。人間にはないウイルスに感染したり、人間の臓器ではないからこそ対応できない病気とかありそう
- 人間の臓器と動物の臓器には必ず違いがあると思うため、移植した後の機能や長期的な影響を懸念している。人間のために動物の臓器を用いるのは倫理的にどうなのかと思う。しかし、異種移植をしなければ助からない命がある現状もある程度理解できる
- 臨床実験をきちんとされていて、確実性があるのであれば良いと思うが必ずしも実験で成功しても、自己免疫疾患があったりリスクがあるのであればやめた方がいいと思うが、本人が望むのであれば、いいと思います。
- 人間の体のためにデザインされていないものを人間に移植することは気持ち悪いから。あと、寿命が逆にもっと短くなるのではないか
- 生きられる確率が上がるのであれば良いと思うが、人間とは異なる動物の臓器を使用して本当に大丈夫なのか、今のところまだわからないから。
- 臓器が足りずに病気と闘いながら待つ人を救うことができるなら良いことだと思うが、内容や安全性についてよく知られてないので患者に不安を残すと思う。また、死亡例のニュースしか聞いたことがないことやウイルスの感染のリスクを聞いたことがあることから。

- 異種移植について、まだ私の理解が不足しており、異種移植のための動物の飼育や、異種移植後の人体への影響に不安があるため。
- その後今まで通りに生きられたという話を聞いたことがないから。
- 動物から臓器を移植して良かった話を聞かないから。映画か動画とかでそれと関連したものをみてイメージも悪い。
- 移植がうまくいったとしても、そのあと何年後にどんな不具合が出てくるか予想ができないと思うから。
- 今までに行われている事例では移植後数ヶ月で患者さんがなくなっているため、まだ技術が発展するまでは動物を殺してまで異種移植を行うべきだとは思えない。
- 意識回復後の突然死など、予後が悪い例しか聞いたことがない為。また、異種移植についての一般レベルの説明が充実しているとは思えず、患者が異種移植をほんとうに望んでいるかの意思確認が難しい為。

Q9-1. 想像してみてください。あなたが重い腎臓病を患い、移植が必要と医師から言われた場合、あなたの希望する移植方法の優先順位を教えてください。(順位付け)



Q9-2. Q9-1の順位にした理由を教えてください。(自由記述)

<「死者から摘出した臓器の移植(死体臓器移植)」を1位にした人の意見>

- できるかぎり犠牲のない形で、かつ、人からの臓器提供を受けたいから
- 自分の移植を考えると、死者からの移植が一番罪悪感がないと思った。動物からの異種移植は不安がある。
- 他人が活着しているのならば、自らの体を犠牲にしてほしくない
- 誰かの迷惑になってまで活着している意味はわからないから。iPS 細胞でつくった臓器が機能するなら上位になる。
- 提供する生き物が活着している状態でダメージをおわない、もしくは臓器を提供するために殺されない順番で選びました
- 人間からもらった本物の臓器が一番臓器として働いてくれそうだが活着している人の臓器を提供してもらおうとその人の腎機能に影響しそうだから生体臓器移植はできるだけしたくない。しかし、動物の臓器が人間の臓器として正常に働けると思えないので最終手段として考える。これらのことから死体臓器移植が1番助かる可能性が高く人に迷惑をかけないと思い1位とした。再生医療は人工の臓器のイメージが持てないため死体臓器移植の次とした。
- 活着している人から貰うのにも少し抵抗がある。再生治療であれば自分の細胞からなので安心。
- 将来看護職を目指している私からすると、生体臓器移植はドナー側の免疫低下等のリスクがあり最終手段と考えます
- 安心感があるから。

<活着している人から摘出した臓器の移植(生体臓器移植)を1位にした人の意見>

- 生体移植以外は日本では現実的ではないから。脳死で移植提供も少なく、あまり希望を持てないとなると必然とこの順位。異種移植はまだ長期生存が出来たことがなく、分からないことも多いから。ただ、それしか方法がないのなら、今後の医療の発展のために受ける。
- 活着している人間のほうがいいから
- 活着しているもの、自分に近いものの方が安心できるから
- 最も普及している、一般的な方法だと認知しているから。
- まずは人間の臓器から移植されたい。実績が多いから。それがダメなら再生医療で少しでも人間から作られた細胞を使用したいから。それもダメでそれでも生きたい気持ちがある場合は最後の望みとして、治験のような覚悟で動物から移植する可能性は無きにあらずとおもったから。

- 1位は、一番信頼ができるから。2位は自分の細胞から作られた臓器と死者から摘出した臓器とを比べてあまり差はないが、どちらかといえば選んだ。4位は動物の臓器を移植することを比べてみて即決だった。
- 助かる確率が高そうなものから順番にしました。
- 安全度が高い、精神的にも安心できる。
- わたしが安全だと思う順番。(生体移植>自分の複製>死者から移植>他人の複製>異種移植)
- 再生医療のほうが拒否反応がでなさそうでいい結果を望めそうだが、きっと莫大なお金がかかるので、生体、死体臓器移植を1位と2位にした。
- できる限り自分のものがいい。他人のものは入れたくない。
- 少しでも長生きできるものを選ぶけど、気持ち的に死んだ人の臓器を使うのは嫌だ
- できるだけ状態の良さそうなものをいただきたいから。
- あくまで腎臓などの誰もが2つ持っている臓器の場合だが、亡くなった人のものより生きている人のものの方が鮮度も良さそうなので、自分自身があまり他人のものを身体に入れたくないため。
- 1位は臓器提供者も生きている状態のため、本人の意思がはっきり分かりスムーズに行えると考えたから。  
2位は何か問題があったり、家族との考えが違っていた場合スムーズに行えない。  
3位、4位は自分の細胞の方が身体が受け入れやすいのではと考えて3位だが、再生医療どちらも完全な状態には遠いと考えたため。  
5位は私が異種移植についてマイナスなイメージを持っているから。
- どうしても人間からの移植が困難になったときだけ、動物の臓器を移植してもらいたいから

#### <自分の細胞から人工的に作った臓器の移植(再生医療)を1位にした人の意見>

- できるだけ自分に近いものがあるから
- できるだけ自分に近い方法を優先
- できるだけ自分の体でできるものがあるから
- 出来るだけ自分の力で、また他の人に協力をさせていただくのであれば今後の生活にあまり支障の無い方法を選びたいから。また、動物から移植するとなったとき自分自身がどうなるか(人間だと言えるのかなど)悩みが、他の移植より多くなると思ったので5位にした。
- 人工的であっても自分から作り出されたものに拒絶する気持ちが少ないため。他人のだと、抵抗はあるから。



- 自分の体の中で解決できるならより良いと思う。生きている人に移植してもらうのは負担をかけることに繋がるためあまりしたくないかなと思った。異種移植は怖い気持ちが大きく最下位にした。
- 自分の中で完結させたいから。亡くなった人の臓器を体に入れるのは少し抵抗があるから。
- 自己完結できるのが1番いいと思ったから
- 自身の力で臓器を賄えることが1番良いと考えています。自分の肉体と近いと感じるほど順位を高く付けました。ただし、生きている人の臓器をいただくことは相当抵抗感があります。
- 自分のことは自分でしたいから。
- なるべく自分の体は自分のもので成り立っているようにしたい。他の人に迷惑をかけたくない。
- 自分の病気はできるだけ自分で治したいという思いがあるから。異種移植についてはまだ詳しくないので最後の優先順位にした。
- 自分の体の問題は、自分のからだのなかで解決することが一番いいかなと思うからです。そして、なるべく生きている人や動物から臓器を提供してほしいなと思うからです。
- 自分の細胞でできるなら、その方法から試したいから。
- できれば自分の細胞等で完結させたい。
- なるべく自分の細胞が良いから
- なるべく自分の細胞から作ったものが望ましいと思うが、それができないなら、他の人のものを移植して来なければならぬと思う。動物からの移植は、他のどの方法よりも慎重になるべきだと思った。
- 1位・やはり自分の体は自分の細胞で構成されていて欲しいから  
2位・誰も臓器を失わないから  
3位・まだ健康な臓器であるから  
4位・人以外だが、生きているから  
5位・一度寿命を迎えているが為、正常に作動するか不安
- 自分以外の方が体に入っているというのは考えるだけでゾワッとするので、自分の細胞から作るのを一位にしました。また、生きている人の心臓を奪うのも嫌だし、死んでしまっている人の心臓も嫌なのでこれらの順位にしました。
- 動物よりは人から欲しい。死んだ人より生きている人から。他人より自分から。
- 贅沢ですが、自分→他人→死者→動物の順でできるだけ自分に近い人から臓器移植を受けられることが嬉しいと思いました。
- 自分から臓器が作れば他者のものよりは安心感がある。生きている人の臓器をもらってまで生きたいとは思わない。

- 自分のじゃなかったら怖いから
- 自分の細胞からの方が安全であると思ったため 1 番にした、後は安全でありそうという思いで決めた
- 自分本位で考えれば生きている人から移植してもらうことが 1 位だったが、実際に考えると自分の細胞で作られた臓器が一番適応しそうだと思ったから。その他は自分の命が助かりそうであったり未知なことが少なかつたりする方法を優先順位高くつけた。
- 自分の細胞から作ったものとの相性が一番良さそうであると感じたから。
- 自分の細胞から作った臓器というのはほぼ安全で安心できると感じたから。また動物からの移植は自分のからだに 100%適応できるとは限らないため最下位にした
- 今の段階では安全そうだから。
- 自分の細胞内なので安心できるから。
- 自分の細胞から作られたものが安心できると感じたからです。
- この設問を判断するには知識が足りなかったため心理的倫理的な理由が大きくなってしまった。いちばん考慮したかったのは安全性、次いで金銭面、提供にかかる時間だった。全く知識がない回答者が予測される本アンケートに対して質問前に情報が与えられないのは適切ではないと思う。選択の理由としては、ヒトとそれ以外ではヒト、ドナーへの身体的負担から再生医療と死体優先、自身で解決できるならば自細胞優先。ただ現実には先述の条件がありこの順位にならないと思う
- 自分の体が 1 番自分に適応しているように感じられるから。また、生きている人から臓器を貰うのは、その人の今後も考えて少し自分の中で抵抗感や罪悪感があるため。
- 自分の体から作られたものが最も安全だと思う。生きている人間の臓器を移植することは生命倫理の問題に引っかかり、臓器売買も行われてしまうと思うのでよくない。
- 自分の体に合うように作った臓器を優先したいので、自分の細胞が 1 番。他人の細胞から作るということも、ある程度、自分に合わせた臓器を作ることができるので上位。異種移植は可能な限り避けたい。
- 自分の体の細胞で作る臓器が合わないことが少なそうだと考えるから。
- 自分の細胞で作れば、絶対に適合するので、一位にした。また、生きている人から移植を受けるのは倫理的にいやだと思ってしまった。
- 自分の細胞から作った臓器なら拒絶反応が起こらないため 1 位、他人の細胞から作った臓器や動物の臓器は少し安全性に不安を感じたから低い順位とした
- 自分または血縁など拒絶反応の少ない他人の細胞から生成できるのであれば、後々発生するリスクが他の選択肢より少ないと思ったから。
- 自己の細胞が一番拒絶しにくいと思ったから。臓器提供の待つご家族と話す機会があり、それを基に順位を決めた

- 自分の細胞から作ることによって、拒絶反応が少なくて済むと思うし、もし、それ以外の方法での移植となった場合、生きている人の臓器を待つことは、誰かの死を望むことになると思うから。
- 自分の細胞から作れると、拒絶反応はないので 1 番安全だと思ったから。異種移植自体には賛成だが、まだ先例が少なく不安な部分もあるので優先順位としては 1 番下。
- 自分の細胞から人工的につくればアナフィラキシーショックの危険もなく安心できる。人間でない動物の臓器を移植するのは安全性に不安がある
- 自分のものが一番だから。拒絶反応も少ないことを期待して。
- 自分の細胞がベストだが、他人の細胞は拒絶反応が怖く、いずれも培養に時間がかかる。異種移植はそのリードタイムを解消できるかもしれないという期待がある。
- 自分の細胞からなら拒絶反応が起こらない、他人の細胞のみならあまり体を傷つけない、異種移植は再生医療のつなぎに使用したいため。
- 自分の細胞なら多分拒絶反応起きないから 1。何らかの事情で自己移植が不可能にしても人様から直接臓器を頂くのは申し訳ないので細胞だけで済ませたいので 2。培養まで待てないなら完全に亡くなった or 助からない方(生前に希望 or 拒否ってなくてご家族等から提供)→身内等の同意が取れた方からの生体移植。どうしても無理なら動物かな…
- 自分の細胞を戻すだけだから。しかし、自分の細胞でも一度外に出した物を戻す事はリスクが低いとはいえない。
- 1 番は、自分のものが最も適応しそうだから。
- まず自分のものを使いたい。副作用が出にくそう。
- 移植後の拒絶反応が少なそうな順位にしました。
- 体に拒絶反応がでなさそうなものから 1 位、2 位…とした
- 免疫学的に近い方が生着してくれやすそうだから。
- 動物よりはヒトから、亡くなった方よりは生きている方から、他人よりは自分からの方が心情的にも良く拒絶反応なども少ないと思うため
- 細胞から作れば拒否反応も少ないのかな？と思った。生きている人の臓器をもらってまで生きようとは私は思えないと思う。
- まず自分の遺伝子に近いものから新しい臓器を作ったほうが安心できるから。次に他人の臓器を選んだのは、同じヒトであるから機能が近い。その中でも新鮮な可能性が高い順番から、行きているヒト→他人の細胞→死んだヒトにした。最後を動物にしたのは別の生命体の臓器であることからの不安から。
- リスクが少なそうな自分の細胞が一番いいと思った。生体移植は人に迷惑が掛かったらどうしようとすこし躊躇われる。
- 1.自分の細胞から作ったものは、身体が拒否反応を出す可能性が低そうだから。  
2.生きている人の臓器は健康そうだから。

3.下2つと比べて抵抗感が少ないから。

4.死んでいる人の臓器が自分の中にあるのが怖いから。

5.豚の心臓を移植した人が適応できず亡くなったというニュースを見たことがあるから。

- 1位の理由:自分の細胞であるため、抵抗がほぼ全くない。健康な心臓を持って生まれたのに一番近い状況だと思った。
- 2位の理由:人間の心臓でありながら、他人の物を体に入れると言う抵抗が1番少ない
- 3位の理由:動物の心臓ではあるが、ほぼ消去法で3位。
- 4位、5位の理由:自分はとにかく他人の心臓を背負って生きるのは嫌。心臓移植には全く抵抗はなく、ドナー登録をしたいくらい。言い方が少し変だけれど、他人の犠牲の上に生きるのは嫌。自分には重荷。  
手術までにかかる費用や時間で左右する。
- 自分の細胞であれば他人に迷惑がかからないので1位、臓器提供を許可してくれた死者なら生きている人よりは迷惑をかける度合いが少ないと思うから2位、他人の臓器そのものより細胞のほうが迷惑が少ないから3.4位。なんとなく自分に置き換えると、意志がはっきりした状態で動物のものは抵抗があるから最下位。
- 1位▶自分で完結できれば誰にも迷惑をかけなくて良いと思ったから
- 2位▶摘出する負担を他人が負わなくてすむから
- 3位、4位▶生きている人からもらうのは心苦しいため死者からの方がもらいやすい
- 5位▶選択肢がこれしかなかったら選ぶが、身体が拒否してしまわないか心配であるため。
- 1位と2位は他人の臓器が欠けないから。残りについては、人間の臓器があるならそっちの方が使いたいから。
- できるだけ、誰も悲しまない「再生医療」を使いたい。人間については、生前に「臓器を提供するかどうか」の意思を問えるが、動物はそれが問えないため、人間の方が優先順位が高い。
- なるべく健康な人・動物の臓器を使うことはしたくないため、この順位にしました。健康な臓器はきちんと体内の正しい位置にあるのが1番だと思うので、なるべく再生医療や亡くなった方からの移植を受けたいです。
- なるべく生きている人の負荷を与えたくないから。
- 再生医療がどの人もダメージがないと考えたので上位。他人よりも自分の細胞の方が体が拒絶反応を起こさないイメージがあり他人は2位。3位の死者からだとは本人と遺族の意思が尊重されれば臓器の再利用ができてよいと思った。4位の異種移植は資料5ページの「懸念されること」がクリアになる事が一番良いが、生きている人から摘出し

てもらうのは申し訳ない気持ちになるので5位。家族がレシピエントの場合は異種移植より生体臓器移植を受けてリスクを減らして欲しいと思う。

- 死体を含め他の生命体から臓器を取るよりも、細胞から臓器を作る方が誰にも迷惑をかけないから。生きている人から、その人の体に問題の無い範囲で臓器を貰う方が、動物を殺して臓器を取るよりも残酷じゃないと思うから。
- 私自身移植も含めた延命治療は受ける気はないです。それでも「もし受けるとしたら」この順位と考えます。優先順位の理由は、他人に迷惑をかける重み順です。
- まずは誰にも迷惑をかけずに移植が行える再生医療を希望し、特に拒絶反応などのリスクが低い自分の臓器を希望する。再生医療が難しい場合、どうせ臓器移植を受けるのであればより長く生きられる可能性の高い人間のものを移植してほしい(せっかくもらってもすぐ死んでは申し訳ない)。
- まず、生きている人からの移植はその人にもリスクがあるためなるべく避けたいと考えている。異種移植はその動物が生きているのか死んでいるのかなどがわからないため、とりあえず5位にした。
- 4位から5位は自身に捧げてくれた人やブタに申し訳ない気持ち・罪悪感から。他者の犠牲が生まれてまで、生きたいと思わないから。
- 異種移植は動物の命をもらう行為であるため、最後の選択肢にしたい。自分の細胞から臓器がつかれるのであれば、それが一番よいと思った。
- 生体移植では誰かの腎臓を奪って生活しているという事実に耐えられず、生きることが辛くなると思った。できるだけ他人に迷惑をかけない方法がいい。
- 腎臓移植を受ける方は、腎臓移植のドナーも入院せざるをえなくて、ドナーの後も糖尿病などの病気や、免疫機能が低くなり、移植を受けた方よりも寿命が短くなるかもしれない。そのことを考えるとしたら、再生医療の進歩がより強力になると思う。
- 生きている人から移植してもらうのは、生きている人自身にも少なからず精神や身体の負担があると思うので、避けたい。異種移植はまだ長期間耐えうるか分からないので、できれば他が良い。人工的に作った臓器については、どのくらい成功するものなのか知らないで、1番にはしていない。
- 他の方への影響を少なくしたかったから。
- 他人に迷惑をかけてまで助かりたいとは思わないから。
- 他人への身体の負担を少なくしたいと考え、このような順番にした
- 他人の臓器による治療は気が引けた。自身の細胞からできた臓器であれば拒否反応も少なく、術中死をせずに済むと思った。
- 誰かが痛むことは避けたい。また、適合性の観点から、自身の細胞を利用できるなら利用したい。以上の理由から順位づけを行った。
- 誰も傷つけないで解決する方法を優先し、それ以外は躊躇いもあるため。
- 他人からは出来るだけ貰いたくないからです。

- 自分の中での優先順位が他者(動物も含む)の命>他者を傷つけないこと>自分の治療が円滑に進むこと、の順だから。また、自分の細胞を利用した再生医療の方が拒否反応が起きる可能性が低く、手術のやり直しといった状況を引き起こしにくそうだから。
- 自分の命のために、他の人を傷つけることはできるだけ避けたいと考えているため。
- 費用は高額になるものの、他人に迷惑をかけることなく安心して移植できるから。
- これが、想像したときの、グロテスクさの少ない順であるため。
- まず私は、別に順位などを気にしていません。何故ならそれで死ぬ確率が減るならむしろやってほしいと思うぐらいです。その上で、順位などが役に立つかと言ったら立ちません。この質問に答えるにはまずこの質問を答える人が何を基準にしてるかにもよると思います。その中で私はわかりやすく自分に合ったものを選ぶという基準から選びました。

<他人の細胞から人工的に作った臓器の移植(再生医療)を1位にした人の意見>

- なんとなく

<動物から摘出した臓器の移植(異種移植)を1位にした人の意見>

- (該当なし)

Q10. 想像してみてください。あなたは赤ちゃんのときに重い心臓病を患い、その治療のためにブタの心臓の移植を受けていたことを今知ったとします。それを知ったときのあなたの気持ちはどういったものであると思いますか。(自由記述)

- ぶたと一体化できるんだと驚くとおもう
- 豚さんすごいなと思います。
- 人と豚の心臓は代わりになることに驚く
- ブタの心臓で生きているんだという驚きと興味
- すごい！自分には関係ない話だと思っていた最先端技術が自分に使われていたなんて思いもしなかった。
- すごいと思う
- すごい医療進歩したな！
- 現代医療ってすごいなと思う。
- 現代医療の凄さをまざまざと感じて感動します。
- 医療の凄さ、世間での治療方法の知名度の低さに驚く
- 他の生き物の命をもらったことをありがたく思うし、異種移植の生きた成功例であることをうれしく思う
- 驚きはあるだろうが、特にどうとは思わない。ある一種の誇りにはなるかもしれない
- 助かってよかった！
- 異種移植したおかげで、心臓病で死なずに今まで生きてこれて良かった。
- ブタさん、臓器をくれてありがとう。
- ブタさんありがとう
- そのブタから命を繋いでもらったことに感謝し、よりこの人生を大切に生きて行きたいと考えると思う。
- 豚の命に感謝
- 今生きていられるのは豚のおかげか。ここまで生きてこれてよかった。
- ブタの心臓だったとしても、それまで生きられているのならありがたいと思う。
- 豚の命に感謝すると思う。自分の命を繋ぐために他の命を使っていること自体は親の選択なので口を出すことではないが、その命には感謝すべきと思うから。
- 親も悩んだと思うが、ブタの心臓の移植を選んでくれたことに感謝すると思う。
- そこまでして私を生かそうとした人がたくさんいることへの感謝の気持ち。
- 最初は、嫌だー！と思う。知りたくなかったと思うかもしれない。でも、今、生きていることに感謝すると思う。
- 私は現在 17 歳です。17 年間健康で問題なく生活できていたため、今生きていることに、そのときの判断に感謝すると思います。
- ブタの心臓でヒトである自分が健康に生きているのか。すごいな。手術してくれた人に感謝だな。

- ブタさんありがとうかな…屠殺の映像見ても誰かがやらねばならない必要な事として多分普通に豚肉食べるけど自分の心臓がブタの物なら本豚の生前の意思や思想が不明である以上、勝手に共食いするのは気が引けるから豚肉食べづらい
- 大変、ショックだと思います。でも、運命と受け止めて今、自身が生かされているのはブタのおかげだとは思いたいです。
- 僕はむしろ豚に感謝したいです。これは個人的な話になりますが、僕は今の親に養子として赤ちゃんの時に受け入れられました。実の両親はすでに何人も生んで育てていたため経済的にも育児の大変さからしてもこれは無理だとわかって預けて今の両親に預けてくれました。その時の気持ちや生活の名での心労は絶えなかったと思います。なので、むしろ殺さないでよく預けてくれたなど今もずっと感謝してます。だからこそ自分が生きられていることに感謝すると思います。
- びっくりするが、ありがたいと思う
- ビックリすると思うけど、それで生きていられるならブタさんに感謝すると思うし、特にマイナスな感情は抱かないと思う。逆に、もしかしたらペットにブタさんをお迎えするかもしれない。
- 瞬間的にはショックを受けると思う。実際に自分は体外受精だったと聞いて自然では無いという意味で衝撃を受けた経験もあるから。ただたとえば本件に関しては、他の命由来の物が体内に入っていることは広くは食事と同じであるし、命を生かすために取られた対応なのは理解ができ感謝すると思う。結局はその内容の伝え方と、周りがそれで差別をしないことが重要
- 驚くけどそのおかげで生きていられるから感謝する。
- きっと驚くと思います。でも、助かったという事実があるのでブタに感謝すると思います。
- 少し動揺するが、今元気に生きていけるのはそのおかげだったのだと感謝すると思う。
- 心臓が豚のものだということについてはなんとも思わないが、豚には感謝したいと思う。
- 驚いて、移植によって生きていることに感謝すると思う。
- 動物の命が失われた一方でその分自分の命を大切にしようと思う。
- 驚くのみだと思う
- 特に誰か(親,医師など)を非難することなく、単純に驚くと思う。
- 豚の心臓である事に驚くが、既に移植済みであるし、健康に生きれているならば特に嫌悪感などは抱かない。
- 驚くとは思いますが、健康に生活できているのなら、ある程度は納得できると思うし、大きく心配することもないと思う。
- 当時生きるために必要であったと産まれて間もない子どものために両親が考えてくれた最大限の答えだと思う



- 両親はすごく悩んだんだろうと思う
- 親が、自分が生きられるようにその選択をしたのだったら受け入れられると思う。ただ、この際にブタが亡くなったことや自分は人間なのかと悩むようになるだろうから、周りが精神状態も含めて支えてあげることが大切だと思った。
- 人間でないものだと分かり嫌になるかもしれないが、今まで問題がないなら受け入れるしかないと切り替える。
- かけがえのないもので嬉しく思う気持ちと、自分のものでないものが体の中にあるというショックと不安な気持ち。
- 少し残念
- ショック
- 驚きと困惑
- ショックを受けるかつ、私のために亡くなったブタの命も考えて悲しい気持ちになる。
- ショックを受けると思います。
- 少しショックであり、複雑な気持ち
- 少し嫌な気持ち。自分の体内に動物しかも食卓に出てくるブタの心臓だから。でも今更取り替えることはできないことに長い時間をかけて理解すると思う。
- もう移植をしてしまっているからしょうがないとは思いますが、やはり不快感はあります。
- 異種の動物の臓器が体の中にあることはヒヤツとする
- 自分で決めることができなかつたのは仕方ないけれど、まずいやな気持ちがあると思う。
- 生きていて嬉しいけど、自分の一部の臓器が他の人と違うと考えるとショックを受ける。
- 驚いたり嫌だなと思うと思います。でも、そのおかげで自分にとって少しでもいい人生を送れているのであれば後悔はしないと思います。
- ショックを受けると思うが感謝するとも思う。
- 正直、怖いという感想が1番大きいと思う。
- すごく驚いて今後の自分に心配する。
- いつどうなるかわからないので怖いと感じるようになると思います。
- 一番最初来る感情は不安だと思う。ブタの心臓が人間の心臓として一生働くことができるのか心配になると思うので先生にブタの心臓移植について聞きに行くと思う。落ち着いてきたら私のために心臓をくれたブタへの感謝の気持ちが出てくると思う。
- 人間ではない臓器が自分の中にあるのは怖いと思う。
- 人間と100%同じ心臓ではないので長く生きれるのか心配ではあるので不安にはなる。
- 寿命が気になる。

- 今後体調に異変が出たり、本来の人間の心臓である周りの人と比べて寿命が短いのではないかと不安になると思う。
- 長く生きられないのでは、と思う。ブタの寿命が短いから。
- 適合性と寿命の不安を考える。豚の心臓を移植したあと急死した事例があり、自身の心臓も長持ちするかが不安。
- 自分の体内に人間の臓器ではないものが入っているとわかるとギョッとするが、今元気に生きていられるのであれば問題ないと思う。しかし、今後病気になった時などに治療できないのか不安にはなる。
- 将来、臓器に不具合が起きて倒れないか、これからの健康が不安になる
- 今後医療機関にかかった際正しく診てもらえるのかの不安、症例が少ないことで自分が実験台にされているのではないかという憤り、また自分以外は限られた人物しか知ってほしくない恥じらいや劣等感
- ブタであることよりも、免疫抑制剤などを服用し続けたりすることが辛くなると思います。
- ブタとしての臓器の機能が実際にあって運動など、有酸素運動が他人より劣ってしまうかもしれない。その分のハンデを抱えながら生活しているかもしれない。
- 自分の体内に他の動物の臓器があること自体に抵抗があるし、自分に移植するために命を落とすことになったブタがいることにショックを受けます。
- 乳児の時の選択なので仕方ないが、自分に決定権がなかったことに怒りを感じる。ブタの心臓で生きていることに気持ち悪さを感じるかもしれないが、そこまでして生きて欲しいと思った親の心情も分からなくはない。
- 何で隠していたのかという両親や周囲の人への疑問。事実については、受け止める。
- 自分は人間じゃないのかと思う。ぶたという異種のものが自分に組み込まれていると知ったら、倫理的なものや尊厳的なものがかなり揺らいでしまいそう。
- 自分は人間じゃないのかな、、、とってしまうと思う
- 驚きとショックを隠せず、自分はブタであったのかという感覚すら覚える。
- 「複雑な気持ち」そのおかげで今を生きれていると思うととてもありがたいことだと思うが、他の動物の心臓で生活しているということに対してコンプレックスに感じると思う。
- 今まで健康的に生きて来られたので安全性に驚く。自分の体に人間ではないものがあることを不思議に思い、自分の定義について考え直すと思う。
- 移植について隠されていたことに強いショックを受けると思う。自分は本当に人間なのかというアイデンティティが揺らぎ、とても不安になると思う。
- とても複雑な気持ちになる。生きていることができているとはいえ、人ではなく動物からの移植を受けさせようとする人の気持ちはわからなくはないけれど、人としての心臓ではないもので生きて行くというのは辛い要素であると感じる

- ブタに感謝の気持ちをまた一方で、その命を使って自分が生きているということに罪悪感を感じることはあるかもしれない。
- 何らかの動物が犠牲になったことに対する責任感が産まれるかもしれない
- 現在、ブタから移植を受けたことで人間から移植を受けていた時と同等の状態なら凄いなと思うだけだと思う。もしブタから移植を受けたことにより生活の支障があるもしくはあった場合は生に対する考え方が変わるかもしれないと思った。
- 誰にも知られたくない。自分のことが嫌いになると思う。
- ぶたに感謝したいけれど、友達に知られたくないと思ってしまう
- まだ異種移植に関する認識が広まっていないために、正直、周りに余り知られたくないと思ってしまうかもしれない。
- それでも今生きていればいいと思った。ただ、私にはムスリムの友達がいる、彼らには秘密にしようと感じる。
- 私は人なのかどうか、今後生きていく中で、命の危険性があるのではないかと不安。また、差別の対象になりそうなので、本当に信頼できる人でないと、心臓のことは話せない
- 人からの移植に比べて、ネガティブな感覚を一時的に持つかもしれない。すぐに思考を整理できず、豚を見ると思い出すと思う。ただ、それは異種移植が一般的ではないがゆえの特別な感覚だと思う。広く知られ、子供のときから学校で教わり、国内外での異種移植実施数も多い世の中だったら、感謝の気持ちや豚への関心の高まりがあると思う。
- 他にいい方法はないのかな？と思った。でも元気になったから感謝の気持ちもある。さらに、もっといい方法がないか考えるために医者や研究者になりたいと思っている。
- 年齢によって違うと思う。いつ知ったかで気持ちも変わると思う。10代だとまだ10年しか生きておらず、今後の心配や不安が押し寄せると思う。私は今言われても…と思う。今知ると今後病気になったらどうなるのかなどマイナスなことを考えると思う。終活を迎え出したり、子どもが育った後に知るだとそこまで重く考えないのかなと思う。
- 20年以上になにも違和感を感じずに生きてこられたなら、ブタの心臓を移植することを周囲にもすすめられます。
- 自分はどんな心臓を移植されたかはそこまで気にしないが、治療内容は詳しく知りたかったと思うのではないだろうか。
- いま健康に生きているなら問題はない。
- 問題なく稼働していれば気にならない
- 大変だったんだなあと思う。別に今まで気づかないくらい普通に生きてたんならそれでいいかあくらい。
- たとえブタの心臓だとしても、自分が生きているならそれでいい。
- 自分の心臓が人間のものでないことに少しショックを受けるが、生きているのだからあまり気にしないと思う

- 今生きているならそれでよい。気にしない。
- 今生きているなら良い
- 生きているならオツケー
- 生きれてよかったと思うブタは大丈夫かな
- 特になんとも思いません。思うのなら、ああ、私豚さんの命を分けてもらったんだ。豚さんの分も生きよう、なんて思うと思います。
- ブタの臓器であっても正常に動いているのであれば、それは人として生きていることと変わらないと思うから、特に気にしない。
- 何も思わない
- 特に何も思わない。
- 分からない

Q11. 想像してみてください。あなたの友人が重い心臓病の治療のため、ブタの心臓の移植を受けていたことを知らされたとします。それを知ったときのあなたの気持ちはどういったものであると思いますか。(自由記述)

- 生きていてよかった。
- 友達が生きていてよかった
- 命が助かってよかった
- 友人が生きていてくれて良かった。
- 友人が助かって良かったと考えます。人間はそういうものだと思います。
- 生きている事に感謝する。
- 特にない。生きていてくれてありがとう。
- 助かってよかったね！
- 生き残れてよかったね。
- 助かって良かったという安心の気持ちだと思います。
- 全く嫌悪感を抱かず、命が助かったのだからそれで良かったと安心すると思う
- そのおかげで今も友達が生きていられると思える。
- 今まで通り接するだけ。生きていてくれて良かったと思う。
- 助かってよかったというふうに思うと思います。
- 元気になってよかった。
- 元気になってよかったと思う。ブタにも感謝をする。
- 今生きてくれていてよかったと思う。移植された臓器が人間かブタかは関係がないと思う。
- まずは生き延びてくれたことを嬉しく感じると思う。
- 移植を受けられたことを喜ばしく思う。
- 移植を受けていてよかったですと思う。なぜなら今生きているから。
- 適応できたならよかったねと思う
- 人間の臓器移植と同じような術後状態で成功したのなら喜ばしいことだと思う。移植をせずに亡くなるよりは動物から移植してでも普通に人間として生きていけるのなら嬉しいと思う。
- ブタでも、生きているならそれでいいと思っているから。
- 頑張り、となる。
- 友人としての心境の変化はない。気になるポイントにもならない。それについても私から触れないと思うし深く知ろうとも思わない。治療したことで生活上困ることが出来たのなら友人として手伝う。
- 友達から異種移植の話をしっかり聞いて、理解したいと思う。

- 本人が健康に生きているなら問題はない。また、もし本人が周囲の考え方を気にしているとしたら、気にしなくてよい旨伝える。健康上周囲が配慮すべきことを聞きたいと思う。
- まずは友人が生きているということに感謝する。友人がそれを気にしていない素振りや態度を見せたら今まで通りに接する。仮に気にしているようだったら、友人と一緒に悩む
- 心臓病で亡くなる人もいるので豚の心臓だったとしても助かってよかったと思うし、生活面でどうゆう配慮が必要なのかを知っておきたい気持ちもある。
- 本人から直接聞かされたのではない場合は自分が知っている事実を隠すと思う。そのことで距離を置いたりすることはなく、そのことで周囲の友人への印象が悪くなるようなことがあれば庇うと思う。ただ違う臓器を持っている点で共感し合えない部分は出てくるだろうし、関係が悪くなる可能性は十分にある。
- 必要だったんだと思う。深入りはしないようにする。
- 大変だったと思う
- 友達は自分で決めたことだから、肯定する。
- それで健康に生活できているなら理解したいと思う。
- 適合する臓器の提供があれば良いと思う反面、友人が決断した答えならその意思は尊重すべき
- 私自身は抵抗があるので受け止めるのは大変ですが、異種移植が認められて治療したのであれば友人が口を出す権利はないと自分の気持ちに蓋をしたいと思います。
- 友人がそれでもいいと望んで受けたものであるならば私はそれを否定する気持ちはない。
- その友人の気持ちにはなれないが、友人が生きて自分と出会ってくれたことが本当に奇跡だと思うと伝えると思う。でもその子がそれで嫌な気持ちになっても否定はしない。
- 治療のため本人の意思なら全然何も思わない。治療の選択肢にあったらそれを選んだ本人の勇気を尊敬する。
- 大きな苦勞を乗り越えていたその友人を尊敬する気持ち。
- 異種移植の成功例である友人のことを貴重な存在だと思う。また、とても個人的な事情を自分に友人として打ち明けてくれたことを嬉しく思う
- これもそんなことがあったのかあって思う。「大変だったね、知らなかったや」みたいな。不謹慎かもしれないから本人には言わないけれど、かっこいいな！って思う。心臓移植とか凄いかっこいい。生きてきたこともすごいし。
- 重い病気を患っていたにも関わらず、生きていることに感動すると思う。
- 本当にそんな事があるのかと思う
- すごい！ニュースで聞いていたりしたけどこんな身近にいるなんて！

- 上と同じように自分に関係ないと思っていたのに意外と身近なものだったんだ！
- 生きることが凄いなと感じると思います。
- Q10 同様、驚くが嫌悪感を抱かない。むしろ一般の人と違う心臓に特別感を感じる。
- 驚きつつも、元気に過ごせるんだなと思う
- 驚いたり、珍しがったりするとは思いますが、健康に生活できているなら、それでいいと思う。
- 驚きながらも興味はあるので、聞いてみたい。
- 驚くが、興味はある。友人関係が破綻するものではない。
- 嫌悪感はないと思う。その友人へは受けようと思った理由を聞きたいと思う。
- 異種移植の技術に感心すると思う。
- ブタの心臓で生きられるんだという驚きと興味。心臓移植を受けていることで何か気をつける、気をかけることがないか調べよう、考えよう
- かなり驚く。助かって良かったと思うと同時に異種移植について興味が湧くと思う。
- 興味深い。感心する。
- 豚さんすごいなと思います。
- 異種移植が一般的になれば「医療の進歩は日進月歩ですごいね」となるが、一般的でなく知識がない状態だったらブタの心臓で生きているの？と驚くし悪気はないのだが偏見を持ってしまうかも。でも、ブタのお陰で友人は生きているのだからブタに感謝すると思う。
- 変わらない
- 今まで通り接します。
- 友達が生きていられるのであればブタの心臓であっても全く気にならない。
- 今生きているならそれでよいし気にしない。
- 様々な人がいるので、今生きていたらそれだけで十分だと思う。今まで通りの接し方である。
- 特に知ったから生活や関係が変わるわけではないと思う。
- びっくりするが、それまでである
- 驚くけれど、関係がかわったりすることはない。
- 驚くけれどその人を軽蔑したりすることはしないと思う
- 驚くだろうが、今までと変わらないと思う
- 多少驚きはするかもしれないが、別に何も思わないし、関係性も変わらない。
- 特に感情の変化は無い。大きな手術であるとは思うので心配はするだろうがそれはブタの心臓であることは関係ない。
- たとえブタの心臓だろうが現代を生きている人なので、私はそのような人もいるのだと思うだけで、普通に接します。その友達にとっていい人生をおくれているのであれば私は嬉しいです。

- 豚さんの心臓でその子が生きていたのだとしても、その子はその子だから、今まで通り接します。
- 友達としての性格や存在に変化は生まれなため、それほど気にすることはなく今まで通り関わると思う。
- 特に何も感じない。友人は自分と違って、マイナスな考えではない可能性もあるし、自分の考えを素直に伝えるべき内容の話ではないから。
- 友達は移植していても、していなくても友達です。もしも、それが両親だとしたら、自分の健康や将来的なことに様々な疑問が出てくると思います。
- その友人の姿を見て、特に違和感を感じていなかったなら、ブタの心臓の移植に対してなにも思わなくなると思います。
- ぶたの心臓か人間の心臓かなど気にしません。とりあえず生きていてくれてよかったと思います。そこで拒否したら果たしてそれからずっと良き友人として過ごすことはできるのかという問題になります。
- 動物に愛着がある友人であれば友人のメンタル状態が心配になるが、特にそういうわけでもないのであれば何も思わない
- 別に何も思わない。
- そーなんだ
- へー、そうなんだという程度にビックリする
- なんとも思わない。
- 別に興味はない
- 特に抵抗はありません。
- 特に何も思わない
- 特に何も思わないと思う。
- 自分のことではないので何も思わない
- 本人が嫌でないなら問題ない。
- 特に何も思わない。病気だったことが大変だったねと言いたくなると思う。
- 元気に生きていけるか心配。
- 生きているのはありがたいけど、寿命が本当に長続きするのか
- 凄いと感じつつも友人の身体は大丈夫なのか心配になります。
- Q10 のときと同じようにブタの心臓が人間の心臓として一生働くことができるのか不安な気持ちだと思う。しかし、臓器移植を受け入れたことで友人の病気が良くなっていたらとても嬉しいと思う
- その子の将来の健康が気にかかる。異種移植に興味を持つ
- 問題なく過ごせていることに対して、医療の発展に驚くと同時に、きつい運動をしても問題は無いのかなど少し心配する気持ちになると思う。



- ブタでこれからも大丈夫なのかな？ブタであることによる身体の負担は無いのかな？と気になると思う。感情や相手の見方は変化しない。
- 拒絶反応がなかったのか気になる
- 心臓移植を受けて生き延びられたのならとても良かったと思う。移植当時、身体が拒否反応を起こさなかったのは気になると思う。
- 心臓の機能自体はヒトの機能でないかもしれないのでブタの心臓の特性上疲れやすいと思う。心機能に障がいがあるので休ませたりする。
- ブタさんだから、というより「心臓移植を受けていた」ことに対しての心配はあるが、驚き以上の気持ちは抱かないと思う。
- 少し気持ち悪い
- まず第1に助かってよかった、と思うが少し抵抗感を感じてしまう。
- 複雑な気持ちです。嬉しい反面、悲しい気持ちも入り混じっています。
- その人がそれで生きられているなら良かった、と思う一方、犠牲になった豚が殺されてしまったことへの悲しみと、その友達が今後も健康的に生きられるのかどうかという不安があります。
- どう接していいのかが分からなくなると思う。
- 少しでも可能性があるのであれば、やってほしいが、自分からはすすめない。
- その友人が助かってよかったと思うが、生命倫理の問題については、本人には絶対に伝えないが、考えてしまうと思う。
- 生き残れた奇跡に感謝&移植心臓だから機能面が心配。あと豚肉は本人が良いって言わない限りは勧めないし宗教上の理由で豚がダメな方々と気不味くなるんじゃ…と杞憂する
- こいつブタやん

Q12. これまで考えてもらったように、異種移植には大きな期待がある一方で、倫理的な課題も残っています。今後、日本で異種移植が実施されるまでの間、どのようなことについて議論していかなければならないと思いますか。(自由記述)

- その人その人の顔が違うように、体質が違うと思う。色んな観点から調べる必要がある。
- 安全性(4件)
- 本当に安全であるのか
- 安全面の議論
- 安全面についてが 1 番だと思う。移植したあとの問題について話さないといけないと思う。
- 安全性の確立が大事だと思う。
- 安全性、動物の倫理的な扱いについて
- 「安全性」移植後の生活などへの影響 など…
- 安全性の確立。それさえクリアすれば、移植待ちで亡くなってしまふ多くの方々を救える画期的な方法だと思う。何とか頑張つて豚の臓器で安全性が確保され、長期生存が出来、もっと沢山の移植が出来れば良いと思う。
- まずは安全性が第一。また、適切な代替案が無い(再生医療で代替可能かどうか)の検討も優先するべきと考える。倫理的な観点は残っているが、肉食自体をやめるかどうかという議論に繋がりがねず、積極的に行うべきかは疑問。将来的には食肉工場のように「臓器工場」が当たり前になる世の中も想像しなければならないのではないかな。
- 人間の身体の一部を動物と同じにして良いのか
- 術後の人体への影響
- 異種移植をすることでどのようなリスクがあるのか。経済的支援。
- 人間の身体が拒否反応を起こさないか、移植のために使うブタの心臓はどうやって用意するのか、患者やその家族が異種移植も含め多様な選択ができる権利を守れるようにする議論、異種移植ができるお医者さんの育成。
- 長期的な使用に耐えるのか？
- 倫理的問題もあるが、何より医学的に長期的観点で問題ないのか。海外の事例で直後に亡くなつたり、副反応があつたりする事例があると思う。その危険性をクリアにしていきたい。
- 動物の臓器の安全性、清潔さをしっかりとデータで証明すること、人間の心臓と何が違うのかを説明、実際に移植される患者さんに納得してもらえる方法を議論すべき。
- 人間以外の動物の臓器を移植することで、人体に被害が及んだ例やそれに対する改善策等を、国民が理解する必要があると考える。教育の場からのアプローチも必要だろう。

- 健康問題は無いのか、移植が成功したとしても本来の臓器で生きている人と比べて生活に支障が出ることはないのか、異種移植に対する恐怖や不安を具体的に知ってどう払拭していくかなどを議論する必要があると思う。
- ウイルスの問題
- 人間が今までかかったこともなかった感染症と戦わなければならない
- 細菌や感染症の問題。これは、人間同士の移植でも同じだと思うが、動物と人間になると保有する細菌やウイルスも異なり、人間同士の移植よりもはるかにリスクが高いことが考えられる。また、その感染から新たな感染症(空気感染するような感染症も含む)が発生し、流行することの危険性も考えられる。
- 感染症予防法や医療に係る研究の拡充。安全性を高めるために医療現場と治療中の人やその保護者への支援体制などの環境を整備する必要があるのではないかと考える。自分は健康で生まれ育ったが、そうでない人もいることは理解しているので、その人たちが少しでも幸福を感じることができるよう環境を整えてほしい。
- 感染症対策。異種移植をすすめないのであればドナー等の制度整備(仕事や生活保障)
- 移植後になにか障害が残らないかどうか
- 移植によって、性格や見た目が変わらないか。長期にわたって生きたときに不具合が出ないか。
- 移植によって亡くなったなどニュースを見ると、やはり怖いや、危険、家族や私は受けたくない、受けてほしくないと思う。移植は生死に関わることだからマイナスなイメージが減るよう課題を一つずつ確実に消していくしかないと思う。
- ぶたの臓器を使うと言う倫理上の問題もあるが、まずは安全性が大事だと考える。まだマイナーで実施された人も少ない中で患者が安心できる選択肢にする必要がある。多くの検証をし、焦らず時間をかけて進めるべきだと考える。
- 寿命や健康度をちゃんと発表してほしい。元気に生きられるのか、生きていたとしても健康的に生活はできるのか、きちんと公表してほしいと思う。
- 倫理的に難しいことは分かるが、人の命を優先するべきだと思うので、まずは安全性の確保とその具体的なデータなどで国民・市民の同意を得るための議論が必要だと思う。(ガイドラインの作成など)
- 豚の遺伝子改変は、自然界や人に悪影響が無いと言えるのか?
- 手術の方法など
- 移植に使う臓器の基準、移植までのステップ、移植後のサポート、不測の事態が起きた場合の対処法、責任の所在、などの法整備やマニュアル作りを行うこと
- 命の意味について
- 倫理的課題はもちろんのこと、安全性やその安全性を担保するために必要な基準等について多角的に議論していかなければならないと考えます

- 異種移植も臓器移植も、倫理的な課題は今も残っているし、この先も残ると思います。人類が不老不死にでもならない限り、この課題はずっと受け継がれていくと思うから、たくさんの年代の人、性別の人、立場の人、多様な意見を採り入れた議論を続けてほしいと思います。
- 動物を、人間に臓器を移植するために遺伝子を組みかえて、育て、殺すという行為が倫理的な問題になると思いますし、動物愛護という観点からも否定的な人もいます。でも、前述の食肉と同じように、異種移植についても、命を無駄にしない方法が検討されれば良いのではないのでしょうか。異種移植で使用しなかった部位を食べることは出来ないのか、他の動物実験等に使うことは出来ないのかなど、そういった観点からも議論していければいいのかなと思います。”
- 正直、あまり倫理的な問題について気にならなかった。どのような倫理的問題が生じるか、人によってどのように感じるか、その内容について詳しく分析するための議論が必要だと思う。
- 「なぜ異種移植に抵抗があるのか」議論したい。わたしの倫理観はズレているのかもしれないが、臓器移植ができずに困っている人が、科学技術の進歩でそれを解消し、生き永らえる事ができるなら、それはよいことだと思う。
- 私は、食肉など含め、人間は動物の命をいただきながら生きている都合上、動物を大切に、その命を無駄にしないことが何より大切だと思っています。ホルモンなど内蔵の部位もしっかり食べる日本人は偉いなあ、と思います。
- 再生医療の発達までの繋ぎとして異種移植を利用すべきだと個人的には思う。そして、その間の動物の扱いなどについて動物愛護的観点からガイドラインを定めるための議論が必要だと思う。
- 亡くなる動物のこと。
- 動物愛護の観点、差別
- 動物の命の尊さ、移植の研究の継続
- 動物の命、権利
- 動物たちの命について。移植した人の予後。
- 動物の生死と動物の権利について
- 移植になる前までは、アニマルライツも意識してほしいと思います。
- 動物保護法の改正(特に、動物は人間間のやりとりと異なり意思表示カードなどで臓器移植の意思表示ができない)
- 動物の尊厳について、長期的に見て本当に他の動物の臓器を移植して身体的問題がないのか、臓器を提供する動物の決め方、異種移植を受ける人の決め方・人数制限を設けるか否か

- 動物の生命を、どこまで人間のために使って良いのかという点。これは、畜産業や漁業のあり方、食や環境の持続可能性の問題も含めて議論していかなければならないと思う。
- 豚を育てて食べるのと、豚を育てて臓器をもらうことの何が倫理的に違うのか？
- 臓器を抜かれた豚の他の部位は捨てられ無駄にならないか？
- 臓器移植の為にだけに飼育される動物のいのちについて
- 移植をする動物を何にするか
- 臓器を提供する生き物に対して、どういう方法で苦しみを与えないか。
- 臓器を取り出す動物の尊厳も守る必要があるため、その動物に配慮しながらも臓器を取り出す方法を議論する必要があると思う
- どのような状態の動物から移植するか。意志が問えない以上、苦しめてはいけない。
- どのような動物の臓器を移植するか(他の動物の命を無駄にしない、例えば食用の動物の臓器をいただく、など)
- ドナーとなる動物の確保の仕方はどうするのか。ドナーとなる動物の育て方や、ドナーとして利用した後の動物をどうするのか。動物愛護の観点から、動物の権利をいかに守るかが焦点だと思う。
- 臓器を提供する動物たちの育て方。Q8 で書いた内容と同じです。
- 人間が、動物とどのように向き合うのか議論する必要がある。(移植のことだけではなく、食用として酷い扱いをして家畜を育てている場合があることなども含めて)
- 「実施される基準」どの程度の病気の重さで実施されるか、沢山行われていいのか など…
- 動物の命と人間の命に勝手に差をつけてよいのか、どんな人まで移植適応にするべきなのか
- 動物の命を奪ってまで人間は生きる価値があるのか
- 人間の命を買っていいのか。人間の臓器売買は違法なのに、動物の臓器は違法でないので、人と動物の臓器ではなにが違うのかはっきりさせる
- 人の救命のために、動物を犠牲にしてよいのか。食べる事は批判しないのに、治療に関する時だけ、命の価値を議論する思想への対処
- 人間と違って動物であれば殺してもいいのかということ
- 人づてですが、仏教において動物は人間と異なった存在で、移植を行った後にその人が死亡した場合、その仏教関係で宗教関係のお墓に入れることが出来ないと聞きました。だからこそ日本では移植手術に関して進みが遅い、と聞きました。そこについて私は議論するべきだと思います。
- 宗教の違いによる考え方の違いやそれぞれの感性にどう対応するのかなど
- 国外からの宗教的な批判の可能性に対する議論
- 患者さんの意思を尊重できるようにするための方法

- 移植される人の意志
- 臓器提供を求める側の意思の有無は確認されるべき
- 移植される本人の合意について。Q10のように、合意が取れない状態の人についても議論すべきだと思う。臓器提供カードのような移植の方法の意思表示について。
- 必ず患者の同意を得ることと、差別防止のことをすべき
- 異種移植をする際、誰の了承が必要なのか、どの臓器の移植を可能とするのか。また、できる限り避ける方法という共通認識を持つべきかどうかを議論する必要があると思います。移植しても、移植された方が不安を抱えて生きていくことはかなり辛いことだとおもいます。
- 子供が異種移植をする場合親がそれを決めるべきなのか
- 小さい子供に移植をする際、そのことを伝えるのか(いつ伝えるのか)
- 対象とする年齢の制限(本人の意思で希望できる年齢でなければ行わないなど)
- 本人が意思決定できない年齢であった場合、本人へ開示するか。本人以外の第三者(代理人)での同意を認めるか。異種移植を受けた患者、医師を匿名にするなどの保護策(当面はマイナスなことを言われることが多いと思われるため)
- 誰が決断するのかについて。対象が子供である場合、本人の年齢や発達によってどこまで伝えるかはきちんと話をしてください。今の日本の医療では、子供に人権がないように思います。
- 臓器提供に関しての意思表示の普及や未成年者に対する臓器提供に関する意思を本人の考えを尊重して行動に移すことができるようになるにはどのようにしていったらいいか。
- 絶対的に全て肯定して受け入れるのではなくて、患者さんたちの一つの選択肢として導入する方法を検討してほしい。そのためには、異種移植を行う際は、どこまでの人の了承得られれば実行しても良いかなどを明確に定めて置く必要があると思う。(患者本人はもちろん、両親や祖父母など、年齢や判断能力によって必要な了承人数は異なると思うから。)
- 移植を受ける患者と家族にしっかりと説明できるように決まりを作る。
- 倫理的課題がなぜ残るのかいまいち理解できない。家族、移植される方と医療関係者の適切な話し合いが第一だろうと思う。身近にそういう子がいないから言えるのかもしれないが、別に馬でも豚でも犬でも人でも機能するならほぼ一緒じゃない？ロボットの部品をどのメーカーに頼むかくらいな問題に聞こえる。動物側をどう保護するかも問題だけれど、これだけ動物を殺してきて今更言える問題かな？とも思う。
- 名誉の問題。臓器移植の経歴の公開を自由にできるか。
- 幼少期に異種移植を受けた場合の成長してからの心理的ケアについてと動物を人間のために使うこと意味についてはしっかり議論する必要があると思う。また、異種移植は

必ず生命倫理の問題を抱えるため、それ以外の移植方法の可能性についても常に議論しなければいけないと感じる。

- 常に移植される患者さんの立場に立って、気持ちを尊重すること。倫理的な問題なので、慎重に議論するべきです。移植したのは良いけれど、その後の患者さんの心身の状態などを考慮して話を進めるべきです。
- ひとまず患者や家族の気持ちに寄り添うことが優先しなければいけない話ではないかと思います。まあもちろん異種移植をするかは患者の方たちの願いによるところだと思いました。
- 異種移植に悪いイメージを持つ人も少なくないと思うので、異種移植を受けた人が暮らしやすい環境を整備できるのか。異種移植自体倫理的にどうなのか。
- 移植した人の未来。子どもの代に続く健康。移植の年齢。
- 偏見
- 異種移植のバッドイメージの払拭
- 動物の臓器が使われていることによって差別を受けないようにする。それらの情報の公開有無は個人が決められるようにする。安全性を医学的にはっきりさせる。
- 「人権上の問題」治療が行われるようになってからどのような問題が発生するかなど…
- 異種移植をしたことで、差別を受けたり基本的人権が侵されてしまうことがないようにしないといけないと思います。その人がその人らしい人生をおくるために必要な要素を加えただけであること、たとえ動物の臓器であろうと私たちと同じ人であることを世間に伝えていかないといけないのかなと思います。異種移植をした人が生きる上で困らないためにも、人は支えあって生きているのだということを伝えていく活動が必要かなと思います。
- 異種移植をしても、その人は人間だということが分かるようにする。また、本当に移植しても大丈夫なのか、周りの対応をどうしたら良いのかを議論するべきだと思う。
- 周りの人たちがどんな配慮が必要なのか、もちろん差別が起きては絶対ならないので誤解のないようにどう周知させるか等が大切だと思います。
- 近年、様々な事情を抱えた子どもたちの親の投稿内容で露骨な「インターネットのおもちゃ」にされている。今後、「ブタから臓器移植を受けました」という内容で投稿するご家庭がでてくるかもしれないです。当事者の人権を守るために「障がい者差別防止法」の適応範囲を各種サイト運営にも適応してほしい。第二に、心臓の病気を理由に養豚場で窃盗事件や、イノシシの乱獲のリスクも0とは言えない。セキュリティの確保も必要だろう。
- 異種移植に関して、どの部位なら OK とされるのか、またその線引きは何なのか、人間を人間たらしめているものは何なのか、明確な答えはないかもしれないけれど、話し合う必要があると思う。

- 日本国民の考えを学校や職場で調査(アンケート)すべき。臓器移植を待っている方もしくはされた方からの意見を大事にする。臓器移植(人間や再生医療の)をもっと多くの人に周知されるために活動すべき。
- まずは、世間でもっと臓器移植についての認識を広めていくことが必要だと思う。そのうえで、実際の患者の話メディアで報じたりすることなどによって、世の中の臓器提供に対するネガティブな感情を取り除いていくことが必要だと思う。
- 異種移植の安全性、食べて栄養を補うように臓器で生かしてもらうことに対する理解
- ヘビ毒にはウマの血清を使用する、ワクチンにはウシ由来のものもある等現時点で他の生物によってヒトを生かす医療は多い。学術的、方法的には特に問題も議論すべき内容もないと思う。移植を受ける一般市民の感情ケアという意味では注意を払う必要はあるが、それも個人の問題だと思う。義手義足のように当たり前のこととして学校で教え、新しい技術として選択肢に入るよう広報すれば良いと思う。
- 小学生に異種移植が分かる様に命の授業をした方が良いと思う。知識がないと移植を受けた人に対して「ブタの心臓」とからかう子が出てくると思う。今現在ブタの心臓をもらいたくないと言う人の話を聞き、患者が最善の選択ができるように医療関係者が異種移植をどう説明するか議論して欲しい。患者は命を預ける医療関係者の意見を頼りにしていると思うから。
- すでに一部動物の皮膚などが医療にて利用されている事実をいかに周知し、異種移植の安全性をいかに証明し、異種移植への心理的抵抗感を減らしていくのか？
- 動物の心臓に抵抗を持つ人が多いと思うので、大丈夫だと呼びかけると良いと思います。
- 極端な思考の人に如何に無理やり異種移植させるのではなくあくまでも希望した場合だと理解させるか。
- 動物愛護団体がどのような反論をしてくるか。人間に害を与えてくる害獣の殺戮すら反対してくる愛護団体が、異種移植を許すわけがない。
- 異種移植について国民に知ってもらう方法
- 異種移植の理解を深めるために色々な人がそのことについて知り、他の人に話したりして存在自体から認知を広めていくバカだと思う。
- 異種移植に対する偏見(?)や抵抗は議論しても少しは残ってしまうものだと思う。せめて、それらが少しでも減るように、教育課程に取り込んだり政府広報を使ったりなどして、広く知識が浸透するシステムを作るべきだと思う
- 異種という単語のインパクトが大きいので心理的に拒絶しやすいと思う。単語からイメージすることしかできず、きちんとした情報がなければ理解は得られないと思う。
- 他に、臓器提供者はいないのか等の議論
- 異種移植の代わりとなる移植方法はあるのか？臓器提供意思決定カードだけでなく、自治体が病院のネットで確認することができるようにするためにすること。



- 異種移植が最適な場合と他の方法が最適な場合との区別。
  - iPS 細胞等生身から提供受けずに住む方法の模索
  - 人間からの移植と動物からの移植のどちらを優先的に行うか。
  - 技術の高さやリスク、「果たして日本国民にとって有用なものなのか」。
  - 気持ちやお金の問題ではなくて、ブタなど命をいただいて、人間がもっと長生きできる社会を目指したい
  - 異種移植をうけるかどうかは患者の意思でできるものだから、制度自体は安全性が証明されているのなら議論する必要はないと思う
  - 意見を自由に言える環境作り。
  - ①臓器のはたらきについて基本的な知識を周知する。例えば、腎臓や肝臓のはたらきを高校生物のレベルで理解している人はごく一部で、一般にはほとんど居ないということを知ってほしい。ふつうは上の質問文で読み仮名がほしいくらいである。②臓器移植についての方法や考え方が何通りもあることを周知する。③死亡について、心肺停止と脳死とがあると認識しているが、この状態からの臓器移植について科学ベースでの知識の周知がほしい。④異種移植は、要は人間の生存のために動物を殺して臓器を貰うことだと認識しているが、これには「動物の福祉」論と「動物の権利」論が絡むと思う。これらの理論は、他の動物について人間が語っているという時点で全て人間の感想にすぎず、倫理的にも正解はないはずである。倫理的な正しさを求めることの傲慢さと盲目さを理解する必要があるし、倫理的な課題が解決することは本質的にあり得ないと理解する必要があるとわたしは思う。その上で、生命倫理について考え続けることの意義を、研究者などの立場から複数の提起や表明があると、異種移植というミクロな話題に留まらずに知識理解思考を深めることができ、結果として個人の意思決定をより正確にすることができると思う。
- 以上のように、まだ一般の専門外の人々が「議論」を行える段階にないと考えるため、どのようなことについて議論すべきかという問い自体が成り立っていないとわたしは指摘する。
- わからない